

事務事業評価表 平成22年度

政策 安全で快適な都市生活の充実

施策 消防・救急の充実

基本事業 救急救命体制の充実

事業名 **救急救命活動事業**

[0368]

部名	消防	事業開始年度	平成9年度	実施計画事業認定	非対象
課名	救急課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市民</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>すみやかで的確な応急処置を実施することで、苦痛の軽減、安心感を与える。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>高齢化に伴う急病事案の増加等に伴い救急現場及び搬送途上において、呼吸、循環不全に陥る人が増加している。これらの人々の生命を救うため、メディカルコントロール体制の構築をはじめ医療機関との連携を強化し救急救命士及び救急隊員に対する教育を充実させ知識、技能を習得し救命効果の向上を図り医療機関に搬送する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市民	人	123,537	123,054	122,568	122,568
対象指標2						
活動指標1	年間救急出場件数	件	3,613	3,629	3,618	3,600
活動指標2	年間搬送人員	人	3,370	3,327	3,318	3,400
成果指標1	1件当りの平均到着時間	分 秒	6.24	6.43	8.17	8.1
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	5,377	5,682	5,625	5,579
正職員人件費 (B)		千円	100,488	100,296	99,576	99,936
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>105,865</b>	<b>105,978</b>	<b>105,201</b>	<b>105,515</b>

費用内訳	
21年度	旅費 90千円、需用費 4,126千円、役務費 207千円、委託料 1,197千円、負担金 補助及び交付金 5千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	高齢化が進み、65歳以上の病気等による出場が増加傾向にある。
--------	--	-------------	--------------------------------

## 21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由  
・  
根拠は？

消防法第1条

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由  
・  
根拠は？

当該事業を行うことにより救急現場での早期対応が充実し、貢献度が高い。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由  
・  
根拠は？

高齢化社会の進展により、重篤な傷病者の増加のため医療機関へ搬送中の応急処置実施が増えている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由  
・  
根拠は？

救急車を出張所へ分散配置することにより、救急現場での早期対応が可能。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算 + 所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由  
・  
根拠は？

継続的に経費削減の工夫を行っているが、高齢化等により救急需要は増加（心肺停止患者の増加）削減は困難である。